

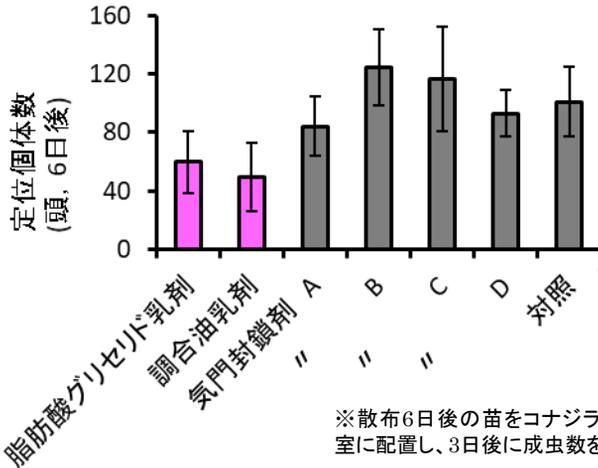
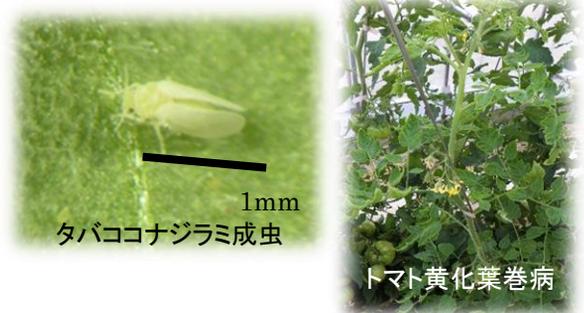
# 岐阜県農業技術センターニュース No.42

## タバココナジラミに対する、油脂系気門封鎖剤の新たな作用！ (病理昆虫部)

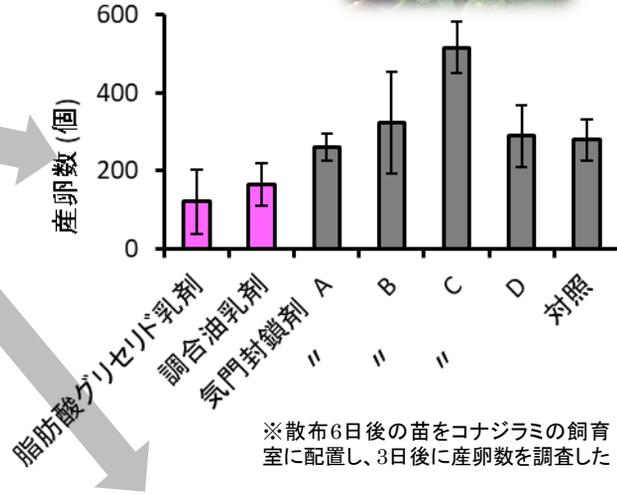
タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス (TYLCV) を媒介する、トマトの重要害虫です。トマトハウス内に侵入した本虫の防除には農薬が使われますが、中でも物理的防除剤は、使用回数に制限がなく、有機JASで使えるものもあるなどの利点があります。

しかし、虫に付着しないと防除効果が期待できないと考えられ、現地での普及が進んでいません。

脂肪酸グリセリド乳剤、調合油乳剤、なたね油乳剤などの「油脂を原料とする物理的防除剤」について、タバココナジラミへの効果を調べたところ、「**トマトの葉にとまる行動 (定位)**」と「**交尾行動**」を阻害することがわかりました。

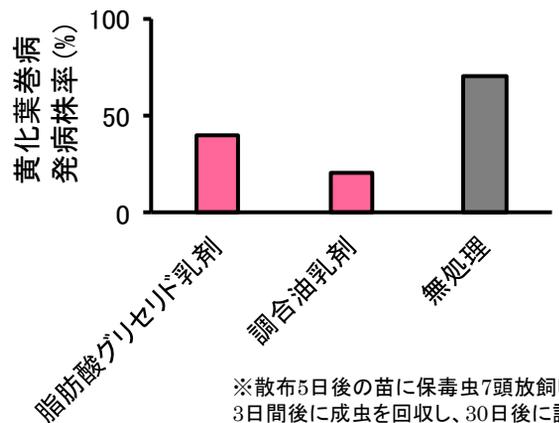
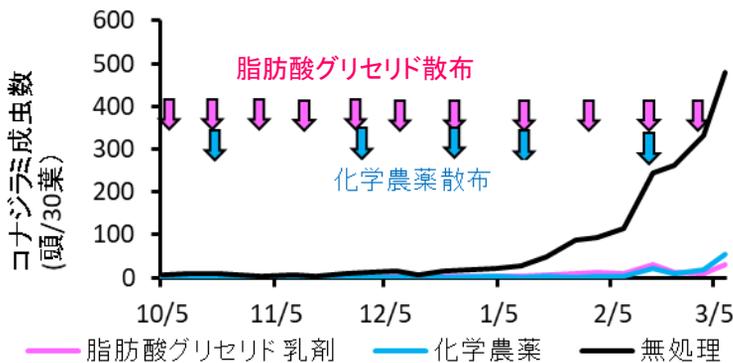


※散布6日後の苗をコナジラミの飼育室に配置し、3日後に成虫数を調査した



※散布6日後の苗をコナジラミの飼育室に配置し、3日後に産卵数を調査した

これにより、タバココナジラミの「**産卵数の減少**」、「**繁殖抑制**」、「**トマト黄化葉巻病の発病抑制**」の効果が確認されました。



※散布5日後の苗に保毒虫7頭放飼し、3日間後に成虫を回収し、30日後に調査した

これらの油脂を原料とする物理的防除剤を、10日間隔で散布すれば、化学農薬と同等の防除効果が得られます。

# 加工業務用タマネギの基肥一発体系を確立！ (野菜部)

本県での秋定植の加工・業務用タマネギの施肥体系は、基肥と2月上旬と3月上旬の追肥2回を基準としています。しかし、生産を請け負う営農組合では、天候不順で追肥時期を逸したり、他品目の作業と重なって適期に追肥できないことが多く、追肥作業の省力化が求められています。

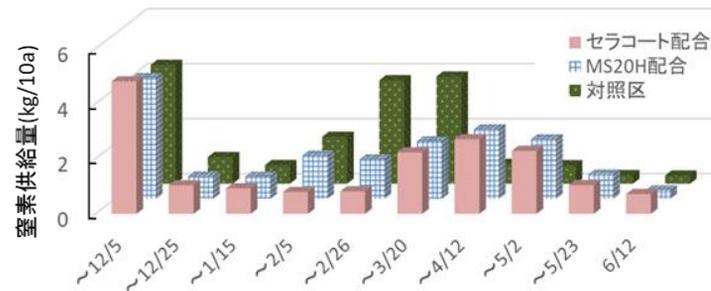
そこで、追肥を必要としない緩効性肥料を用いた基肥一発体系を確立しました。



## 基肥一発肥料に用いた緩効性肥料

セラコート配合	MS20H配合
セラコートRL40 セラコートR25 LPS30	スーパーIBS222 MS20H

## 期間別窒素供給パターン



## 基肥一発体系の生育・収量

	葉鞘径 (mm)	可販収量 (t/10a)
慣行栽培体系	13.7	8.1
セラコート配合	13.7	8.4
MS20H配合	13.4	8.7

\*葉鞘径は4/5に生育調査を行い測定した。  
直径7cm以上の健全株を可販球とし、  
10aあたり約24240株で収量を算出した。

- ① 基肥一発体系には、2～3月に肥料の溶出が多い、セラコート肥料を配合した基肥一発肥料、もしくはMS20Hを配合した基肥一発肥料が適している
- ② 上記肥料の使用により、基肥一発体系の生育、収量は慣行栽培体系と同等となる
- ③ 基肥一発体系の経費は、追肥の労働費が削減できることから、慣行施肥体系と同等かそれ以下となる

## インターンシップで岐阜農林高校から18名を受け入れ



本年度も岐阜農林高校生のインターンシップを7月22日～8月1日まで受け入れています。作物、花き、野菜、果樹・農産物利用、土壌化学、病理昆虫の各部で行う業務の一部を体験していただいています。今年は夏休み初日からの開始で、暑さの中で一生懸命体験していただきました。就農のみならず、県の技術職員を希望してくれるよう今後も支援していきます。また、お盆明けからは大学生のインターンシップも受け入れる予定です。